

平成30年度 久米島西中学校 学校評価

【成果・課題・2学期に向けて】

※ 生徒・保護者・教員ともに4段階で評価。7割となる2、8以下を課題、8割となる3、2以上を成果としてとらえ、分析・考察を行っている。

1. 学校評価から見えてくる成果 ※ () は評価項目番号

- 生徒指導全般について教職員評価は高く(43~46)、実態把握、迅速かつ適切な生徒指導を心がけていることが窺える。生徒評価でも「23私は身だしなみや服装をきちんとしている」が3.5と最も高く生徒自身も身なり等についてよく意識して取り組んでいる。保護者評価でも「16生徒はあいさつがよくでき、身なりが整っている」が3.3で今後も継続していきたい。
- 83%の生徒は「学校は楽しい」と考えており(14)と保護者も97%は「子どもは楽しく学校生活を送っている」(11)と捉えている。今後約2割の生徒への対応を進めながら、Q-U等を活用し、より充実した学級活動を進めたい。
- 生徒・保護者とも、先生は生徒の悩みや相談によく対応してくれていると考えており(生徒9~11、保護者12)、職員も意識して生徒の話に耳を傾けている(9)。
- 人権尊重、豊かな心の育成についても生徒・保護者・職員とも意識して考え、学校や家庭でよく取り組んでいる(生徒16、保護者14・28、職員26・27)
- 部活動についても三者とも意識が高く、意欲的に取り組んでいる(生徒19、保護者20~22、職員52~54)また、休養日の設定についても約9割の保護者の理解が得られている。
- 生徒・職員ともに学校行事や生徒会活動への意識が高く、生徒の自主的・主体的な活動をよく進め、取り組んでいる(生徒17・18、職員34・51)

2. 学校評価から見えてくる課題

- 学習面において「自分の考えをまとめたり、発表したりする」ことに課題がみられる(生徒3・4、職員16・14)。生徒は分かるまで先生に聞くことについて消極的であり(2)、授業者が学習者の理解度をつぶやきや表情等から把握し、生徒が取り組みやすい学び合い・教え合いを設定しながら(生徒5)、生徒自身が考え、表現する活動の実践をより推進する必要がある。
- 家庭学習について、職員は授業との連動を図り「わかる授業」の構築を意識して進めているが(56)、生徒は「家庭学習をやると授業がわかりやすい」の評価が2.8(7)となっており、より一層の工夫が求められている。
- 読書について、生徒が2.2(25)、保護者が2.4(29)、職員が2.8(58)と大きな課題となっている。

3. 2学期に向けて

- (1) 授業において生徒が自ら考え、表現する授業づくりの充実を図る。
- (2) 授業で定着が不十分である生徒への学習に取り組む態度の育成、及び授業や家庭学習、補習等の充実を図る。
- (3) 授業と連動した読書活動(調べ学習等)、学級と図書館、専門委員会が連動した読書活動の推進。
- (4) Q-U アンケートのより積極的な活用による生徒理解の充実を図る。